**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第６２回　（２０２０年４月１９日）**

**・第６２回の勉強範囲：「第三章　ヴィディヤー・シャーゴル訪問」３７頁**

（3月の復習）

参加者：前回、ラーマーヤナ叙事詩から鶴の物語の引用がありました。

👉前回のテキストデータより：「ある時、ラーマとラクシュマナとシーターが森に入っていった。歩いて行くと、湖のほとりに一羽の鶴が静かに立っていた。ラーマは「ラクシュマナ、見てください。この鶴はとても偉大な信者のようです。なぜなら、静かにじっとしていますから」と言った。それを聞いていた魚が湖からジャンプして言った「ラーマ、私はあの鶴と一緒に住んでいるからよく知っているのですが、あの鶴は瞑想をしているのではなく、魚を捕まえるために音を立てずに集中しているのです」

**静かに瞑想しているように見えるが心の中は動き回っている例**

マハーラージ：この鶴のように、「静かに神様を瞑想しているように見える」例をもう一つ言います。

ブラーフモー・サマージ（近代インドの宗教団体）ではブラフマン、つまり「形はなくて性質はあるブラフマン」をいつも瞑想し祈っていました。彼らは、形のある神様を信じていませんでした。ある時、シュリー・ラーマクリシュナは、彼らがどのように神様のことを考え、礼拝し、祈っているかを見たいと思って、その協会をたずねました。シュリー・ラーマクリシュナはそこで、みんなが瞑想しているのを観察したのですが、ずいぶん後になって、その時の様子をサルの例を使って話されました

シュリー・ラーマクリシュナがいたドッキネッショル寺院（マザー・カーリーのお寺が祀られている）には、パンチャバティなどがあり、木立も多く、サルがたくさんいました。サルたちはいつも動きまわって、全然落ち着いた様子を見せませんでした。しかし、そのサルも、時々静かに座っていることがありました。それを見た人は「サルが何かいいことを考えている」と考えましたがそれは誤解で、シュリー・ラーマクリシュナは「サルは、本当は何もいいことは考えていなくて、『これから誰の庭に行って、何の果物を食べようか』と想像をしています」と言いました。

外から見ると静かに座って深いテーマについて考えているように見えても、心の中は全然違うことを考えている。シュリー・ラーマクリシュナは、ブラーフモー・サマージの瞑想を見て、サルと同じ印象を持ちました。目を閉じて、体も動かさず、外から見ると深く瞑想しているように見えるけれど、本当は、全然神様のことを考えないで、スケジュールのこと、未来のこと、家族のことなどを考えている。体は動かなくても心はとても動いている。

（信者に向かって）これを我々は笑うことはできません。我々の状態もそれと同じではありませんか？

シュリー・ラーマクリシュナはサルの例を引いて、その誤解を説明しました。ラーマーヤナ叙事詩では、鶴と一緒に住んでいる魚が「一緒に住んでいる者が鶴の本当の性格を知っている」と言って、「ラーマ、誤解しないでください。鶴は深い信者でもないし、瞑想をしているのでもありません」と教えました。鶴の集中の対象は神様ではなく、魚でした。サルの集中の対象も神様ではなく、果物でした。

**すべては神のもの。「自由意志」も神のご意志**

自分のものは、何もありません。体、知性、家族、などすべてどれも自分のものではない。

しかし、我々は、あるモノを食べたいとそれを食べ、外に出たいと散歩に行く。そのようにして自分の願いを満足させていますね。それを自由意志（free will）と言います。我々は、何を考えてもいいし、いつでもなんでも願いを可能な限り満足させることができます。それが自由意思です。例えば、囚人は刑務所に入っているので自由がないので自由意志はありません。召使いも主人の命令に従わないといけないので、自由意志はありません。しかし、皆さんは、自分には自由意思がある、と考えていますね。皆さんは「私は○時に○をする」というアイデアは、自分の自由意志によるものだと思っています。もちろんサラリーマンは全くの自由ではないし、結婚をしても自由は減りますが、それでも自由はありますね。

もう一つ、「努力すること」について考えて下さい。「頑張ってください」「努力してください」「努力すると神様の恩寵が出ます」「努力しないと神様の恩寵は出ません」と言われます。その努力とは、我々の努力なのでしょうか？

我々には、「努力」と「自由意志」が本当にあるでしょうか？

それともないのでしょうか？

努力と自由意志のイニシアチブ（主導権）は誰にあるでしょうか？

そのことは、識別するとわかります。

本当は、我々には「自由意志」はありません。

バガヴァッド・ギーター第18章61節を見てください。

*イーシュヴァラハ　サルヴァ・ブーターナーン フリッ・デーシェールジュナ ティシュタティ/*

*プラーマヤン　サルヴァ・ブーターニ　ヤントラールーダーニ　マーヤヤー//　18-61*

*アルジュナよ！至高主（神）は全生物の胸に住み、によって彼等を動かしておられる。まさに運転手が車を動かすように。*

**神様が我々の中に座ってコントロールしている**

本当は、神様が我々の中に座って我々を全部コントロールしています。例えば、人形劇を外から見ると、人形が動いたり話したりしているように見えますが、本当は人がコントロールしています。日本の文楽では、人が糸でコントロールしているのが見えますが、インドではコントロールしている人は全然見えず、隠れています。だからお客さんは、人形が動いていると思います。我々の本当の状態もそれと同じです。

神様が我々の中に魂として座って、自我やほかのもので、我々をコントロールしています。

バガヴァッド・ギーター第18章61節の結論は、「神様が我々をコントロールしています」です。だから我々に自由意志はありません。

同じことを別の見方で、「プラクリティ（根本エネルギー）が我々をコントロールしている」ということもできます。これは神様がコントロールしている、というのと同じです。なぜならプラクリティの持ち主は神様ですから。

では、プラクリティ（根本エネルギー）はどのように我々をコントロールしていますか？

同じ章の59節と60節を見ますとそれが分かります。

*ヤド　アハンカーラム　アーシュリッテャ　ナ　ヨーッツヤ　イティ　マンニャセー/*

*ミッテャイシャ　ヴャヴァサーヤス　テー　プラクリティス　トヴァーン　ニヨークシヤティ//　　18-59*

*スヴァバーヴァ・ジェーナ　カウンテーヤ　ニバッダハ　スヴェーナ　カルマナー/*

*カルトゥン　ネーッチャシ　ヤン　モーハート　カリッシュヤシ　アヴァショーピ　タト//　18-60*

*たとえ君が身勝手な考えで『自分は戦わない』と思ったところで、君の決心は空しいものとなろう。なぜなら、としての天性により、君はどうしても戦わなければならなくなるからだ。18-59*

*クンティー妃の息子（アルジュナ）よ！　君は迷いのために自分の為すべきことをやりたくないと思っているが、しかし自らのと自性に駆り立てられ、結局君は同じことをやることになるであろう。18-60*

**「プラクリティ（性格）」と「これまでのサムスカーラ」が我々をコントロールしている**

５９節、６０節では、「性格（天性）プラクリティ」と「これまでのサムスカーラ」が我々をコントロールしている、と言っています。つまり我々に意志の自由はないということです。

例えば、アルジュナは戦士の性格を持っています。それにも関わらずバガヴァッド・ギーターの第１章でアルジュナには幻惑が出て、「私は戦いたくありません。なぜなら友だち、親戚、先生を殺さないといけないからです。私は戦いより托鉢をしたいくらいです」と言いました。托鉢という皆さんからサポートを受けるやり方はブラーミンのやり方です。それを戦士のカーストの人がするのはおかしいですね。日本の侍のことを考えてください。侍が闘わずに托鉢するのはおかしいではありませんか？　そして、クルクシェートラの戦いの前にアルジュナが「戦いたくない」とのいうのを聞いたクリシュナは「あなたは、今のところ『戦いたくない』と言っているが、あとで戦いが始まると、あなたは戦います。なぜならあなたの性格は戦士の性格だから」と言いました。我々に自由意志はありません。全部、以前のサムスカーラ、これまでの性格がコントロールしています。

サムスカーラには、良いサムスカーラと悪いサムスカーラがあります。

シュリー・ラーマクリシュナの出家直弟子はとても良いサムスカーラを最初から持っていました。彼等は、子供のときから「私は結婚したくない、お坊さんになりたい、神様を想っていたい」と望んでいました。例えば、アベダーナンダジーがドッキネッショルを初訪問したとき彼は、１４，5歳でした。シュリー・ラーマクリシュナから来訪の目的をたずねられ、「私はヨーガを勉強したいです」と答えました。それは肉体的ヨーガではなく霊的ヨーガのことです。そしてシュリー・ラーマクリシュナは「あなたは前世ではヨーギーでした。そして私はあなたにヨーガを教えます」と答えました。他の直弟子、例えば、スワーミージー、ブラフマーナンダジー、ヨーガナンダジー、プレマーナンダジー、みんな子供のときから良いサムスカーラを持っていました。別の種類のサムスカーラを持っている人もいます。世俗的なサムスカーラが大きい人は、やり方、考え方がそのサムスカーラにコントロールされます。みなさん、自分のことも考えてみてください。例えば、世俗的なサムスカーラが大きい人が、「霊的実践をしたい。長く瞑想をしよう」と思って瞑想を始めても、サムスカーラの影響で神様のことではなく、世俗的なことを考えてしまうでしょう？

だからといって瞑想をするのが無駄である、ということではありません。そうではなく、私は「我々には本当の自由意志がほとんどない」と言っているのです。我々は自分の意志で考えたり動いたりしていると思っていますが、そうではなく、すべてプラクリティとサムスカーラがコントロールしています。

**すべては神のもの。努力も神からのもの**

しかしそうではあっても、信者は、努力によって、前の世俗的なサムスカーラを取り除き、新しい良い神聖なサムスカーラを作らないといけません。意志の力（will force）を使って、努力しなければなりません。努力して、瞑想、実践をしてください、といつも言っていますね。そしてそれを続けると、新しい良いサムスカーラが始まります。

では、その努力は、自分の努力でしょうか？　それも識別してください。

本当は、「努力する力」も神様のものです。神様からあらかじめインプットされたものです。コンピューターには最初から様々なプログラムがインプットされているように、我々の努力も、我々の中に前からいろいろ入っています。努力する力は神様が我々にインプットした一つのプログラミングのようなものです。

しかし、「我々の意志も努力もすべて神様のものである」ということは、悟らないと分かりません。シュリー・ラーマクリシュナは「外から見ると、我々には自由意思も努力する力もあるように見えても、識別して悟ると、本当は全部は神様から与えられたものということが分かります。『努力』も神様のもの、『自由意志』も神様のご意志です」と言いました。ものだけではなく、願い、考え、すべては神様がコントロールしています。努力も神様からもらったものです。

「いっぱい努力をすると神様の恩寵が出ます」と言いますが、では、「恩寵」と「努力」は何が違いますか？

神様の考えは、「私はあなたに力をあげました。あなたはそれを使ってください。すると私はもっともっと力をあげます」というものです。

努力は「神様があらかじめ下さった力」です。我々の努力の結果、「神様がもっともっと下さる力」が「恩寵」です。そして先ほどの言ったように、努力も神様から与えられたものです。例えば、お母さん、お父さんが子供にお金をあげました。それなのに両親からもらったお金を使わずに「またお金をください」と言うと、お母さん、お父さんは「前にあげたお金を使いましたか？　使っていないのなら、それから先に使ってください。それがなくなったら、またお金をあげます」と言いますね。

前にあげたお金が「努力する力」、これからあげるお金が「恩寵」です。そしてお金は全部、お母さん、お父さんが与えました。同様に、努力も恩寵も神様が我々に与えてくださるのです。努力と恩寵は別々のものではなく、両方とも神様のものだと考えれば、矛盾は起きません。しかし努力は私がするもの、恩寵は神様からもらうもの、と考えると、矛盾になります。

（４月の勉強）

**📖読み**

**『福音』３７頁上段Ｌ１８，１９**

 人が推理によって神を悟ることなどができますか。　の召使におなりなさい。自分を神に任せきり、それからに祈るのです。

英語版：Can one know God through reasoning? Be His servant, surrender yourself to Him, and then pray to Him.

（解説）

とても大事なことを言っています。今日はこの部分を注意深く勉強しましょう。

その前に、２つの単語について、説明と確認をします。まず「推理」と訳してあるreasoningの意味は、「議論をして識別すること」です。また、日本語訳の「悟る」は、ベンガル語と英語では「知る」（know）という単語が使われています。ですからそのまま翻訳すると、「神様を知ることができますか？」となります。翻訳の「悟る」でも間違いではありませんが、ニュアンスが違います。原語が「悟る」ではなく「知る」なので、まず「知る」ということについて、集中して考えていきます。

**「知る」には様々な深さがある**

「知る」には、いろいろあります。例えば、「サラリーマンが同僚のサラリーマンのことを知っている」「ある店の店員が常連客のことを知っている」「ある人が友達のことを知っている」「家族が別の家人について知っている」などです。これらの「知る」は、それぞれ「知る」のレベルが違います。この中で一番深く知っているのは、たぶん、同居の家族同士ですね。今日の冒頭では「鶴と一緒に住む魚が鶴についてよく知っている」という話をしましたね。

しかしこれらの「知る」を別の角度から見ると、すべて同じ種類の「知る」です。ここで「知っている」ということの内容は、名前、形、プロフィール、生体情報（バイオデータ）、など外のことです。

それよりもっと深い意味の「知る」は、その人の性格についてです。外から見るとその人の性格はわからなくても、例えば、旦那さんは奥さんの性格を知っています。

しかし、考えてください、旦那さんは奥さんのことを本当に知っているのでしょうか？

本当は、一緒に住んでいても旦那さんは奥さんのことを知りません。それだけでなく、旦那さんは自分で自分のことも知りません。なぜなら、自分の潜在意識の中にどれほど自分で気づいていないことが隠れているか、自分自身も分からないからです。潜在意識は氷山のようです。氷山の一角は海上にあらわれていますが、ほとんどの部分は、海の下に隠れています。そのことを考えれば、旦那さんは奥さんのことをはっきり知らないし、自分で自分のことがはっきり分かりません。

もっと深く「知る」について考えると、このような霊的な見方になります。それは、アートマンを悟らないと、自分のことを知ることはできない、ということです。

（まとめると）知るにはいろいろなレベルがあります。

①普通の見方、世俗的な見方のレベル

②心の見方、潜在意識の見方のレベル

③霊的な見方のレベル

我々は、③、つまり、霊的な見方で自分を見ないと、理解しないと、知らないと、本当は自分のことを知っているとは言えません。もちろん、他の人のことも知ることはできません。

**本当に神様を「知る」には、悟りが必要**

同じように、神様と神様の化身について考えてください。

例えば、神様であるシヴァ神、ドゥルガー神や、神様の化身であるラーマやラーマクリシュナについて、もし、信者に「あなたはラーマ神様のこと知っていますか？」と尋ねたときに、その信者が「はい、知っています」と答えたとします。その信者が、ラーマ神様を「知っている」と答えた理由は「ラーマ神の写真も像も見たことがある」であったり、「ラーマーヤナ叙事詩の中のラームチャンドラのいろいろな遊びを知っている」であったりします。それらの答えは決して間違いではありません。

また、例えばシュリー・クリシュナについて。

「シュリー・クリシュナの写真を見たことがあります」「像を見たことがあります」「バーガヴァタムのシュリー・クリシュナの物語を知っています」ということで、シュリー・クリシュナのことを知っている、と答えます。

皆さんに質問です。皆さんはシュリー・ラーマクリシュナのこと知っていますか？

「ラーマクリシュナの写真を見ました」、「ベルル・マトに行って像を見ました」、「『福音』を勉強しました」、「『ラーマクリシュナの生涯』を読みました」という経験のある人の答えは「はい、知っています」と答えるでしょう。

しかし、本当にそれは、シュリー・ラーマクリシュナを知っている、ということでしょうか？　「知っている」には、浅い意味での「知っている」と、深い意味での「知っている」があります。本当は、神様を知ることは、悟らないとできません。神様の写真を見て礼拝して、神様のことを勉強しても、神様のことを知ることはできない。それでは十分ではないです。

シュリー・ラーマクリシュナは、「神様のことを知りたいなら、議論をして、いろいろ勉強をして、何回も神様のことを聞いて、神様の話しをしても、それだけでは神様のことを悟ることはできません」と言いました。

また、「頭だけでたくさん聞いても、神様のことを理解はできません」という言葉が聖典の中にあります。例えば、学者はたくさん聖典を勉強しているにも関わらず、神様のことを知りません。それだけではできないのです。

そしてシュリー・ラーマクリシュナは言います、神様のことを知るには

「の召使におなりなさい」と。

**神様を悟るとは、神様の「本性」を悟ること**

「悟る」について、詳しいことを言います。「神様を悟る」とは、「神様の本性を理解する」「神様の本性を悟る」ということ、「自分を悟る」とは、「自分の本性を悟る」ということです。悟るべきは本性です。このことは大事なポイントです。なぜなら「“本性”を悟る」ということを理解していなくては、神様を悟る具体的なイメージを持つのが難しいからです。

皆さんは「神様を悟る」というと、どんなイメージを持ちますか？

「神を悟る」と言いますが、そのことを説明できますか？　その「悟る」という意味は何ですか？例えば、シュリー・ラーマクリシュナについて、学んでいます、聞いています、話しています、写真を見ています。しかしシュリー・ラーマクリシュナの理解はそこまでではありませんか？　シュリー・ラーマクリシュナの本性を理解することは、どこまでできていますか？

シュリー・ラーマクリシュナの写真を見て礼拝して、いろいろな本を勉強して……というのはもちろん無駄なことではありませんが、それだけではシュリー・ラーマクリシュナの本性を悟ることはできません。我々は最初から「目的」を理解しなくてはなりません。我々の勉強の目的、祈りの目的、瞑想の目的は何ですか？

**瞑想、勉強、祈りの目的は「シュリー・ラーマクリシュナの本性を悟る」こと**

我々の瞑想、勉強、祈りの目的は、「シュリー・ラーマクリシュナの本性を悟る、理解する」ことです。そのことを最初から理解してください。なぜなら、すべての実践は、目的がないと、やる気が出ないからです。目的がはっきり分からないと、「どうして私は瞑想しなければならいのか」ということもはっきりとわからない。そうすると、進むことができない。それどころかやめる可能性もあります。

「写真を見る、瞑想する、勉強する、祈る」などは「シュリー・ラーマクリシュナの本性を悟る」という「目的」に達するための「方法」にすぎません。

私はどうしてこのようなことを言うのでしょうか？　シュリー・ラーマクリシュナの信者になって、シュリー・ラーマクリシュナの写真や像を礼拝し、瞑想し、話をし、話を聞くだけで十分だという信者は多いです。普通の信者はそれで十分だと思っています。しかし、ここでシュリー・ラーマクリシュナが言っていることは「神様の本性を悟らなければならない」ということです。「議論などはわずかな助けとなるだけで、それだけではできません」と言っています。

**神様の本性を悟らないと、苦しみ、悲しみ、悩み、恐れ、疑い、無知はなくならない**

では、どうして神様の本性を悟らないといけないのでしょうか？

なぜなら、悟らないと、本性を悟らないと、「我々の本当の苦しみ、悲しみ、恐れ、疑い、無知はなくならない」からです。悟らなければ、輪廻も終わらず、何回も生まれ変わりが続きます。輪廻が続くということは、同じような苦しみ、悲しみなどを何回も繰り返さなければなりません。

**一般的な信者のやり方では悟ることはできない**

神様の祭りに参加する、ちょっと祈る、ちょっと瞑想する。あるいは日本のお寺、神社に入ってちょっと拝む。それらよりももうちょっと高いレベルの信者は、瞑想、祈りと、神様について勉強をする。ですけれどもそれも十分ではないです。なぜ十分ではないのか？

「日本ヴェーダーンタ協会に来ると気持ちがいい」という人がいるように、神様の信者が、神様のことを考え、神様に祈り、お寺に入り、祭りに参加すると、気持ちがよくなることがあります。しかし、日常生活に戻ると、また普通の状態に戻ります。「気持ちいい」が続かず、安定しない。それが、一般的な信者のやり方の結果です。そのやり方の結果はいつもそうです。ある時ちょっと気持ちがいい、ちょっと幸せが出る。しかし、それはすぐに消えます。そうではないですか？　また家族の中に入り、仕事に戻ると、再び世俗的な考えとなり、幸せの状態はなくなる。本当は悟らないと、苦しみ、悲しみは消えません。だから悟らないといけないのです。

皆さんは「幸せが欲しい」といいますが、本当の幸せが欲しいのではなく、ちょっと「楽になりたい」だけです。今の大変さから逃れて楽になりたいのです。しばらく楽になったとしてもまた、大変な状態になると、また神様に、もうちょっと楽になる状態が欲しい、とお願いします。それは、本当の幸せの状態が欲しい、ということではありません。

「安定した幸せが欲しい」と願っている人は、とても少ないです。なぜならそのためのチャレンジが大きいですから。ちょっと神様に祈ってちょっと瞑想する、というような一般的なやり方では到達できないですから。

**「神様の本性を悟る」ための****準備**

「安定した幸せ」を得る、「神様の本性を悟る」ためには、「心の清らかさ」「神への愛を増やす」「神様を悟りたいという願い」という3つの準備が必要です。

**①心の清らかさ （purity）**

心の清らかさを得ること簡単ではありません。我々の中には、「さまざまな汚いもの」、「否定的な感情」などいっぱいありますから。それらをきれいにしないと、心は清らかにはなりません。「清らかさ」を浅い意味でとらえると「禁欲」ですが、それだけではありません。「禁欲」は「清らかさ」の一部です。本当の「清らかさ」とは、「心」「体」「会話」「行動」のすべてのレベルにおいて清らかになる必要があります。これが一つ目の準備です。

**②神様への愛を増やす**

心、体、会話、行為が清らかな人は、道徳的な人と言えます。しかしそれだけだと、霊的ではない。霊的な人、神様の本性を悟りたい人のために必要な準備として、「もっと神様への愛love for Godを増やす」ことが必要です。

**③「神様の本性を理解したい」という願い**

目的は「神様の本性を悟りたい」ですから、「心の清らかさ」「神様への愛を増やす」だけでは足りません。「神様の本性を悟りたい」という願いも必要です。

**「本性を悟る」準備ができるように、神様にお任せする、神様に祈る**

このように「神様の本性を悟る」ためには、いっぱい準備して、いっぱいやらないといけない。そのために、シュリー・ラーマクリシュナは「神様に祈ってください」「神様にお任せしてください」と言いました。なぜなら、自分の力ではできないですから。

①’ 清らかさ

我々は「清らかになりたい」と思っても簡単ではない。例えば、粗大なレベルでの清らかさについて、異性のことをなるべく話さない、避ける、ということを実践しても、心のレベルで異性に関して清らかであることは難しいです。「清らか」とは包括的な意味で「清らか」になることですから、本当に難しいです。しかし、それがどれほど困難なことかは、「清らかになりたい！」という考えを持ち、実践している人でないとわかりません。

そして清らかになる努力をして、困難にぶつかったときに、神様に「神様、助けてください」「神様、私は清らかになりたくて、何度も努力しているのですが、何度も脱落しています。だからどうか助けてください」と祈ります。

中には、実践が難しいので何度も堕落し、ついには「もうやめます、無理です。前の生活に戻るほうがいい」と考える人もいますが。

そしてもっともっと清らかになると、もっともっと敏感（sensitive）になります。例えば、不純な考えが浮かんだ時に「どうしてこんなことを考えてしまったんだろう」という大きな後悔が、大きな心の波動となってあらわれます。大きな後悔というリアクション（反動）が出るのです。それが「清らかさ」の実践が進んでいるという印です。一般的な人は、不純なことを考えても気にしませんが、不純な考えが少しでも出たときに、大きな後悔が出るようになると、それは、清らかになっている印の一つです。不純なことが浮かんでも、心が動揺しない。映画を見ても大丈夫。もしそのような状態だったら、気を付けないといけません。

**中から深い祈りが出ると、神様は願いとかなえてくださる**

しかし問題は、バガヴァッド・ギーターの中にあるように、気を付けてもまた、堕落する可能性もあることです。そして、その時、大きな後悔が出ます。そうすると、その時に「神様、助けてください。自分の力では難しいですから」という中からの深い祈りが出ます。「大変だけれどもやめない、だけれども自分の力ではどうしようもない」という時に、本当は、中から深い深い祈りが出ます。深い祈りが出ると、神様はその願いをかなえて助けてくださいます。

そのためにシュリー・ラーマクリシュナは「神様に祈ってください」と言いました。「お任せして祈ってください」とはそういう意味です。なぜなら、自分の力ではできないからです。「自分の力ではできない」という感覚は、浅い修行をしている人にはわかりません。そこまでの努力をしていない人には、分からないです。

②’ 神様への愛を増やす

二つ目、神様への愛についても同じことです。神様をもっと愛したいのに、神様以外の他の存在をもっと愛しています。いろいろな趣味や家族も好きです。世俗的な魅力に惹きつけられてしまいます。しかし、他のものより神への愛を一番増やさないといけない。しかしそれもできていないですから、その時「神様、助けてください」と祈る。

③’ 神様を悟りたいという願望

神様を悟ることについての歌があります。一つは「泳いで海を渡る」という歌詞です。また、「小人が月に触りたい」という歌詞の歌もあります。泳いで海を渡ることも、小人が月に触ることも自分の力ではできませんね。そして歌います。

♪モンブジェチェ　プランボーチェナ ドルべシュシー　フレバモーン　ケジャネーデカリーケモン♪

意味：私は小人だけれど、月を触りたい。母なるカリー、マザー・カーリー、私はあなたの本性を理解したいのです。でも何も準備ができていません。自分の力ではあなたの本性を理解するのは無理です。だからどうかお願いです。神様、あなたにお任せします。あなたの恩寵だけであなたの本性を私に理解させてください。

そのために、神様にお任せして、祈ってください。なぜなら、別の方法はないですから。面白い例ですね。我々が自分の力、自分の知恵で神様を悟ることは、「小さくても到達したい（悟りたい）」、「海を泳いで渡りたい」という比喩くらい無理なことです。それを神様の恩寵だけで、悟る。恩寵のために、神様にお任せして祈っています。（37頁下段、38頁上段）

ガードマンが夜間に巡回中に物音を聞いて、そちらにライトを当てると、その場所のことはすべて見えますね。また、もし私が夜道で皆さんを見たいなら、皆さんのほうに向けてライトを照らすと、私から皆さんは見えます。しかし、皆さんからは、ライトの焦点が反対側なので、私は見えません。もしライトを持っている人を見たいなら、その人に、「どうかご自分の姿にライトを当ててください」とお願いしなければならない。『福音』の中にその例があります（115頁下段）。それと同じことです。神様は我々を見ています。しかし我々から神様は見えない。だから、神様に「神様、神様の光をどうかご自分の顔にお当てください。そうすると、わたしはあなたのお顔を見ることができます」と祈る。つまり、「神様の恩寵で、神様の本性が何かを理解させてください」と祈ります。

シュリー・ラーマクリシュナの直弟子であるサーラダーナンダジーがある時、ホーリー・マザーからイニシエーションを受けた弟子に、とても大事な助言をしました。サーラダーナンダジーは弟子への手紙に「あなたがもしホーリー・マザーの本当の本性を理解できたなら、ホーリー・マザーの本性を悟ることができたなら、ギャーナ・バクティ・ムクティ（本当の知識本当の神への愛、解脱ができます）」と書きました。

ホーリー・マザーの外見は、田舎の女性です。服、体、何も特別ではありません。ドレスもとてもシンプルですから。しかし、ホーリー・マザーの本性を理解できれば、ホーリー・マザーの本性を悟ることができたら、ギャーナ（本当の知識）、バクティ（本当の神への愛）、ムクティ（解脱）、全部ができます。そうすると、人生の目的を満足させることができます。

サーラダーナンダジーは手紙で続けました

「しかし、あなたの今の状態は、イニシエーションは受けたけれども、ホーリー・マザーの本性をまだ悟っていません。あなたのグルは、ホーリー・マザーです。ホーリー・マザーから受けた助言をずっと実践してください。ホーリー・マザーの助言に従ってください、信じてください。そうすれば、最終的にホーリー・マザーの本性を理解できます」と。

イニシエーションは最初の段階ですが、目的は「神様を悟る」ことです。皆さんの中で、イニシエーションを受けた人もいますが、その中にイニシエーションの目的を覚えている人はどれだけいるでしょう。「マントラを108回唱える」だけで十分と考える人も多いです。しかし、それでは十分ではありません。それだと自分をだましている（self-cheating)ようです。イニシエーションの目的を達することはできません。イニシエーションの目的は「神様を悟る」ということを考えてください。

先ほども言ったように、シュリー・ラーマクリシュナは「『議論する、聞く、勉強する』ということは、助けにはなるけれど、それだけでは十分ではない。本当は悟らないといけない」と言いました。

そのために神様に「お任せ」して「祈り」を捧げてください。なぜなら自分の力だけではできないですから。それが『福音』でシュリー・ラーマクリシュナが言っていることです。

そうするとホーリー・マザーの本性は何かが悟れます。

**神様の本性**

では、ホーリー・マザーの本性、シュリー・ラーマクリシュナの本性、神様の本性、自分の本性とは何ですか？

ホーリー・マザーの本性は、サット　チット　アーナンダです。

ホーリー・マザーは、母なる神です。

ホーリー・マザーは、根本エネルギーです。

ホーリー・マザーは、全知全能遍在です。

ホーリー・マザーは、創造、維持、破壊をする存在です。

この宇宙を創造し、維持し、破壊しています。

それがホーリー・マザーの本性です。「本性を悟る」ということは、これらのことを悟ることです。そして、本性には「遍在」もあるので、ホーリー・マザーは、私の中、皆さんの中に住んでいます、存在しています。

**「全てが神様、全てがホーリー・マザー」という理解が、本当の知識､解脱､本性を悟ること**

「あなたと私」「その人と私」「ものと人」「動物と動物」「動物と人間」「私と神様」「神様と神様」など、我々はそれらを、すべて別々の存在だと思っています。

「女性と男性」「日本人とインド人」「子供と年寄」「貧乏と金持ち」「無学な人と学者」「黒い白い」「近所の人と近所ではない人」「友達と友達ではない人」「家族と家族ではない人」「同じ宗教の信者と信者ではない人」など、人同士の中にも別々がいっぱいです。このように、我々の心の中にそれぞれがバラバラの存在としてありますね。

人同士の中だけで、それくらい様々な別の存在があります。「動物と動物」について考えて下さい。「トラと鹿」は同じではない。そう考えると、動物同士の中にも、ものすごく様々な「別々」があります。木についても「リンゴの木とマンゴーの木」は別の存在であるように、さまざまな「別々」があります。　神様について考えると、自然の神の中にも「海の神と山の神」など、さまざま神様が存在します。天照大御神という神様の存在もありますね。そう考えると、神様も、あるグループ内でも様々な神様が存在し、あるグループと別のグループの神様もバラバラです。

そのように、「別々」という考えがある間は、恐れはなくなりません。

「私と他の人は別」という考えがある間は、嫉妬、怒り、恐れは出ます。

もし、「みんな同じ」「みんな一つ存在だけ」という考えが出ると、嫉妬も怒りも恐れも全てはなくなります。

なぜなら、我々の、暴力、肉欲、憎しみ、恐れは、自分以外の存在からきているからです。皆さんは自分で自分を恐れないでしょ。恐れの源は別の人です。だから、「全部が私と同じ存在」、「全部が神様ホーリー・マザー」だったら、その時、恐れの対象はなくなりますね。

生きている間、すべてがホーリー・マザー

亡くなるときもホーリー・マザー

亡くなった後もホーリー・マザー

病気もホーリー・マザー

お医者さんもホーリー・マザー

薬もホーリー・マザー

病気を治すのもホーリー・マザー

病気を治さないのもホーリー・マザー

その状態になると、その時、恐れは出ません。

「すべての中に、全ての人の中に、すべての状態の中にホーリー・マザーを見る」と、

その人にとって、それが「本当の知識」です。それが「解脱」です。それが「本性」です。

その人にはもう欲望は出ない。

バクタの考えで「すべてはホーリー・マザー」､

ギャーニの考えで「すべてはブラフマン」です。

どちらも同じことです。「すべてはブラフマン」「すべてはホーリー・マザー」「すべてはシュリー・ラーマクリシュナ」「すべてはイエス」「すべてはお釈迦様」など、何でもいいです。あなたが楽と思う対象を考えてください。

しかし、「別々」「バラバラ」という考えが出るうちは、まだ悟っていません。

ウパニシャッドの中にあります。

「ある人がバラバラという考えを続けているうちは、何回も生まれ変わります」

そして、「すべての人の中に自分を見ます。自分の中にすべてのものを見ます」とはバガヴァッド・ギーターの言うことです。

すべての人を自分の中に、すべての人の中に自分を見ると、一体、誰が誰を憎むのですか？　誰を恐れるのですか？

全部が私であったら、憎む対象も恐れる対象も存在しません。

バクティの考えで、それがホーリー・マザーの本性です。

「その本性を悟るために、お任せして、祈ってください」とシュリー・ラーマクリシュナはおっしゃいました。

もちろん努力も必要です。「清らかになる」、「神への愛を増やす」、「神様を悟る」という努力をします。努力をしながらすべてを神様にお任せして深く祈ると、それはできます。

（第６２回『福音』勉強会）以上